



平成27年8月21日
海上保安庁

西之島の火山活動の状況（8月19日観測）

8月19日、羽田航空基地所属航空機（MA722 みずなぎ）により、西之島の火山活動の観測を実施した。

1．噴火の状況

火砕丘にある火口から、約1分～1分30秒間隔で白色の噴煙を上げて噴火が継続していた。火口縁及び火砕丘の北東斜面にあるホルニト状の噴気孔からは、青白色～白色の火山ガスが連続的に放出されており、白～黄色の火山昇華物が周辺に広く分布していた（図1）。

溶岩は、火砕丘北東斜面の麓にある流出口から北方向と東北東方向に地表を流下していた。また、溶岩は、溶岩トンネルを経由して東方向と南方向へも流れており、東岸及び南岸の一部では水蒸気が放出されていた（図2，3）。

西之島の周囲には、褐色の変色水域が海岸線に沿って幅約100～200mで分布していた（図4）。

西之島の火山活動は引き続き継続しており、今後も噴火による影響が及ぶおそれがあることから、西之島及び周辺海域（島の中心から半径4kmの範囲）においては、付近航行船舶へ引き続き航行警報により警戒を呼びかけている。

2．新たに形成された陸地の状況

前々回（6月18日）の当庁航空機による観測と比較して、主に東南東方向に拡大していた。一方、南東岸では、波浪による侵食と思われる海岸線の後退が認められた（図5参照）。

同乗した東京工業大学火山流体研究センターの野上健治教授からは、「先月の観測に比べて、火砕丘にある火口の火口縁上と南西斜面に噴気帯の発達が顕著で黄色～白色の火山昇華物が広く分布している。

噴気帯のガスは火道から漏れ出したものと考えられ、このため火口での爆発頻度は 2 か月前の 6 月までの活動と比べて減少しているものと推察される。」

とのコメントが得られた。

8 月 19 日時点での形状（暫定値）

・東西：約 2,000 m（6 月 18 日時点 東西：約 2,000m）

・南北：約 2,000 m（6 月 18 日時点 南北：約 2,100m）

・面積：約 2.71 平方 km、東京ドームの約 58 倍

（6 月 18 日時点 約 2.70 平方 km、東京ドームの約 58 倍）

（参考）西之島全体の面積（旧西之島を含む）：約 2.72 平方 km

（噴火前の西之島の約 12 倍）



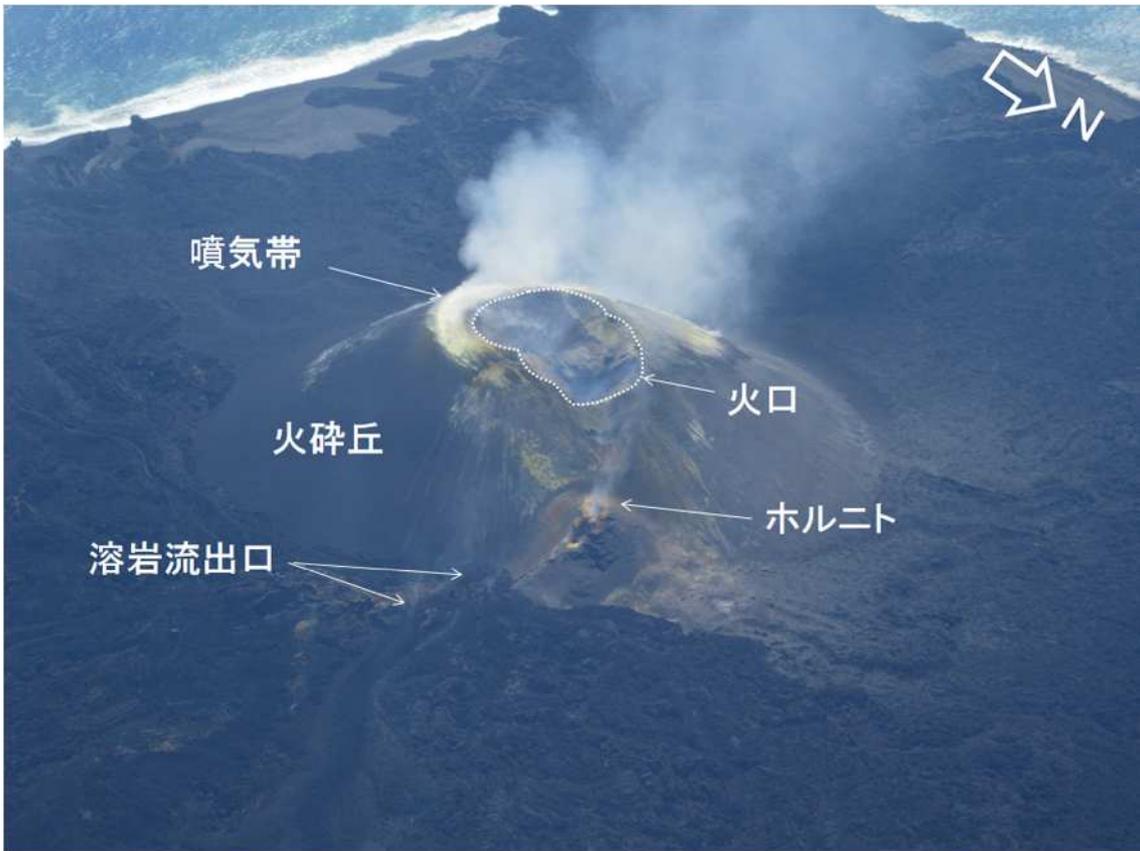


図1 火砕丘の火口と噴気帯（8月19日撮影）

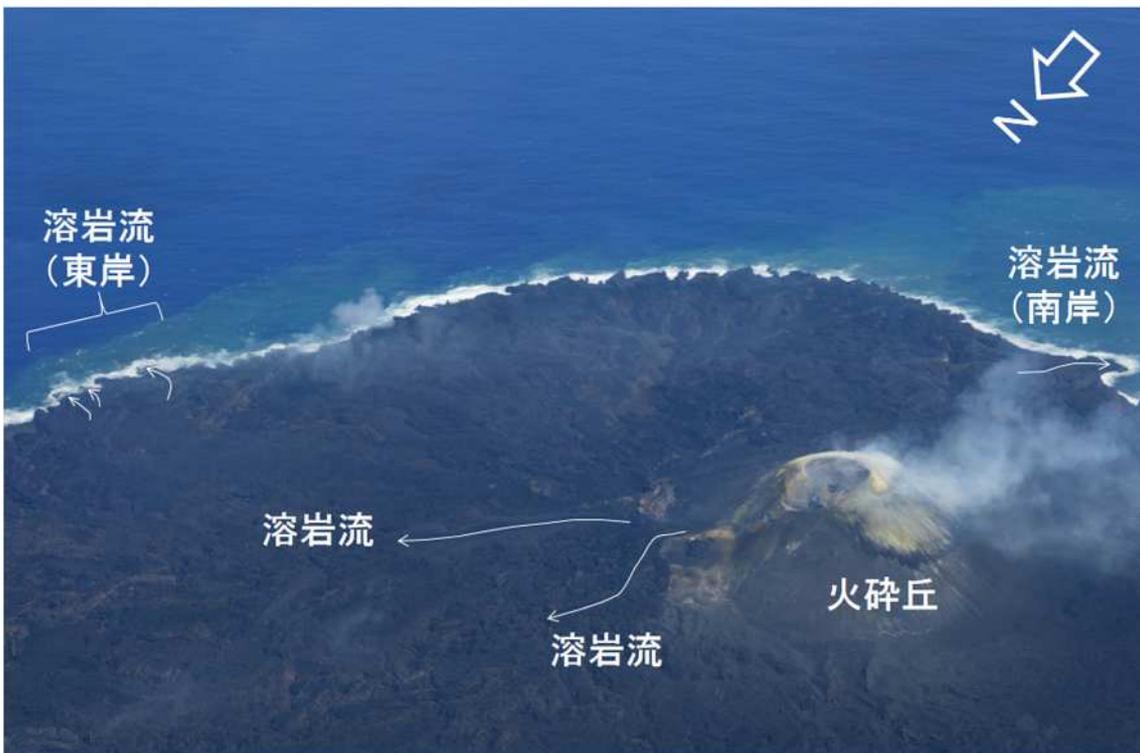


図2 溶岩の流れ（8月19日撮影）

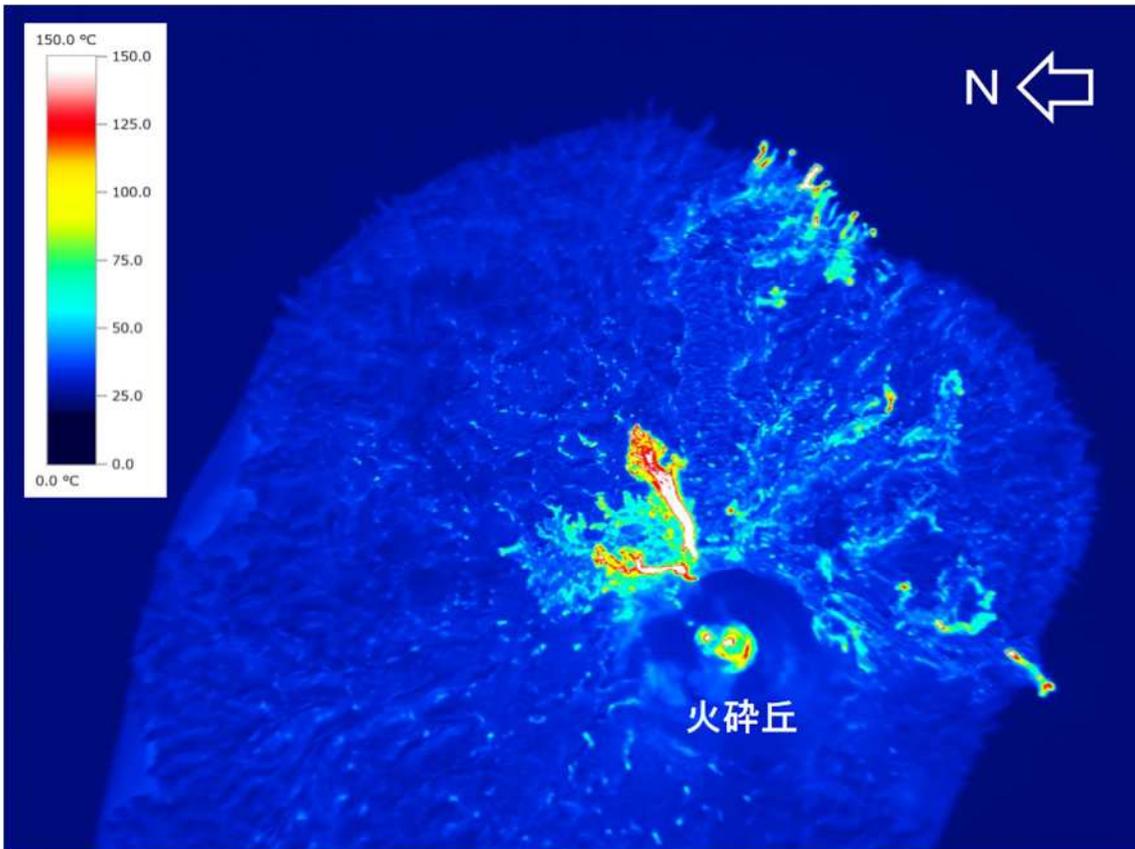


図3 熱画像の解析結果（8月19日撮影）



図4 西之島周囲の変色水域の分布（8月19日撮影）

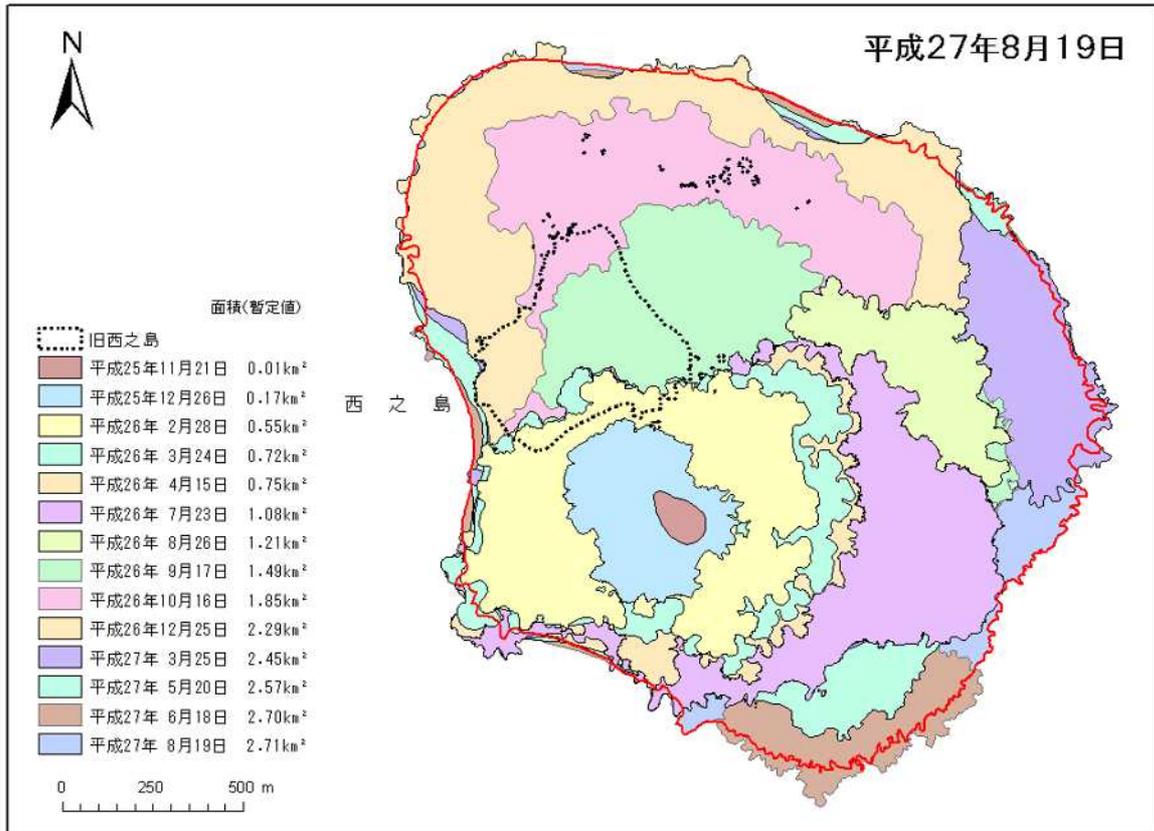


図5 新たに形成された陸地部分の形状変化の様子
赤線は8月19日現在の陸地の外縁